

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0970500435		
法人名	社会福祉法人津田福祉会		
事業所名	和田の家		
所在地	栃木県鹿沼市白桑田254-12 (電話) 0289-76-2959		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年9月3日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人(うち兼務2人), 非常勤1人, 常勤換算7.45人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費—8,000円 ・寝具リース代—65円/1日 ・共有費—実費 ・理美容代—1,000円 ・おむつ代(1枚あたり) —XL100円、L90円、 M80円、尿取15円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食 300 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ 200 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		4 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 83 歳	最低 76 歳		最高 92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さつきクリニック、ファミリー歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園風景も見られる閑静な住宅街の中に位置し、敷地内に同法人の特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスセンター等が隣接しており、安心感を持って入所できる環境にある。ホームの「その人らしい生活づくり」の理念に沿った入居者主体のきめ細かな支援活動によって入居者の穏やかな生活が保たれ、若い職員の活気も相まって、地域に居住する子どもたちが自然と足を運ぶ和やかさがある。そのことが子どもたちの親をはじめとした地域住民もまた訪ねてくることができる相乗効果を呼び、自治会に入会して地域住民との清掃活動も検討されるなど、地域にも愛された活気のある施設である。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での自治会の清掃活動への参加については、日時の調整がつかずまだ実現はされていないものの、今後の調整を図りながら参加したいと考えている。また、同法人内の保育園生や近隣の幼稚園生や小学生が訪ねて来てくれる機会が増え、地域住民との関係がより良いものになってきている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者がリーダーシップを発揮しながら先頭に立って職員と丁寧に会話を重ねながらまとめあげた。具体的なまとめ方は管理者から職員に何度かフィードバックをして共通理解を図り、再度提示し、職員間での確認と課題の共有が図られた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域住民代表、家族、行政職員等を参加メンバーに加えて2ヶ月に1回開催している。各委員からの提案や助言を得て、ホームの運営やサービスの向上に活かしている。最近の高齢者施設を襲った自然災害や火災事故、新型インフルエンザの流行などをふまえて、防災や感染症の予防等への取り組みなど、社会情勢にも配慮された議論が行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に1回、ホームのサービスに関するアンケートを無記名で実施している。意見箱、第三者委員等も設置し、家族からの意見を集約する努力をしている。また、毎月家族宛に自筆の手紙で日常の様子を伝え、介護計画の立案の際にも家族の意見を聞くなど、家族の意向を尊重している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「和田の家祭り」というホーム行事を開催する際には、地域住民も招待して交流を図っている。また、自治会にも入会し地域の行事にも参加をしている。近隣に住む子どもたちが自由に入出入りできる環境を整え、日常から地域住民と良好な関係を築いている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活づくり」という理念を掲げて、その意味を「利用者が今できること、実現したいことを積極的に支援する」と理解し、家庭的な環境のもとで安心と尊厳のある生活を支えるべく実践に励んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和は現在は行っていないが、玄関に掲示されている。「和田の家会議」を月に1回開催し、全職員が入居者の精神及び身体状況を的確に把握することによって、職員は入居者と日々接する時に理念を感じる事が出来ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ敷地内に同法人の保育園を有していたり、近隣に幼稚園もあることで日常から地域の子どもたちとの交流がある。さらに、卒園した子どもたちが小学生になると、はじめは授業の一環として来ていたものが自主的に遊びに来てくれるようになって、その親たちも迎えに来るついでに入居者と交流が持てるなど、近隣住民と良好な関係を築きつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議の中で職員に周知を行い、業務の見直しを検討することで、職員間で共有された上での改善に取り組んでいる。今回の自己評価についても、管理者が作成したものについて職員に報告を行った。		

和田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の任期は1年で、2年に1度のペースで人員交換を行っている。今年度は、地域住民代表、家族代表、行政職員、地域包括支援センター職員を交え2ヶ月に1回1時間程度の開催をしている。ホームの活動状況や評価の取り組み等を報告し、各委員からは提案や助言をもらってサービスの向上に活かしている。	○	家族からの意見があまり積極的ではないという課題があることから、現場側から話題の提供や問題提示して行う他、その話題について教示できる講師を会議に呼んでみるなど、議題が多岐にわたり、運営推進会議が更に充実していくように工夫してみようことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常から担当者とは頻りに電話でやりとりを行い、相談しやすい関係を築いている。「和田の家祭り」にも参加してもらい、焼きそばを焼いてもらうなど、ホームを知ってもらう機会を積極的に作る努力をすることで、協働関係も築くことができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には積極的に声をかけ、入居者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。広報誌の作成は行っていないが、入居者本人が手紙を書ける場合は、日常の様子を書き記した自筆の手紙を毎月家族に送付している。金銭管理については、出納帳に記入し、事務所の方で毎月報告書を作成している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口として、国民健康保険団体連合会、ホーム、市の連絡先を明記している。さらに、法人として苦情処理委員、第三者委員を配置し、意見箱の設置も行っているが、苦情、意見が出されたことはない。しかし、サービスに対しての家族アンケートを年に1回無記名で行うなどに努めている。	○	家族間の意見交換から出される意見や要望等は運営推進会議の有効な議題にもつながるものであり、家族会発足の検討や家族が仕事等で集まるのが難しい場合などは、休日や夜間に行う開催時間等を工夫して、より家族の意見が運営に反映されるような取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動はない方が良いことは承知しているが、これまでに退職を含めると5名の異動があった。ただし、ここ1年半ほどの異動はない。職員の退職に応じての異動の場合は、約1ヶ月は新旧の職員を重ねるよう配慮し、急な退職の場合でも、在任している職員でフォローするよう心がけている。		

和田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社1年目と2年目に研修を実施し、入社時にも法人内の研修に参加させている。外部研修についても年数に応じた内容や業務上に必要な内容を勘案して受講できるようにしている。研修に参加した際には報告書を作成し、職員間でその内容についての共有も図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、同業者と交流する機会を持っている。また、近隣地区のグループホーム職員で集まり、親睦を兼ねて研修を開催して、情報交換も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人内の利用者が入所する場合は、あらかじめホームを見学してもらったり、職員が訪ねて行ったり、入所の説明の際も本人に同席してもらっている。新規の入居者については、初めは家族との連絡を密にとり、頻回に面会に来てもらうなどの配慮をとることで、徐々に慣れていくことができるようきめ細かな配慮がなされている。	○	入居予定者、家族ともに安心且つ納得しながらサービスの利用を開始できるよう、事前に日中の通所利用や入居スペースに空きがある場合には体験入居等とおして、事前に場所に慣れてもらい、職員や他の入居者とのなじみの関係を築く等の段階的な支援方法のあり方について工夫を試みることを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庭に畑を作っているが、畑の耕し方や収穫のタイミングを教えてもらうなど、入居者が能力を発揮し、やりがいを感じられる場面を設定する配慮をしている。お花見の行事では、太巻き、きんぴらなどは入居者のお手製であり、生活の知恵や文化の体験を職員は入居者から学ぼうという姿勢持つなど、お互いに支え合う関係を築いている。		

和田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士の会話から例えば髪を染めたいのか、外を眺めていれば外に行きたいのかと、入居者の言葉や表情からその思いをくみ取っている。また「私の思いシート」を作成し、入居者に今楽しいこと、つらいこと、やりたいこと等を書いてもらい、本人の意向の確認をとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、介護支援専門員、介護主任が中心となって、サービス担当者会議の中で介護計画が立てられている。また、家族面会時に家族の意見を聴き、入居者本人が記した「私の思いシート」も反映されるような介護計画立案に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6カ月を基本としているが、立位や食事形態の変更など状態の変化が見られた場合には、随時計画の見直しを的確に行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の心身状態の変化や家族の要望があった場合等には、同法人のケアハウスや特別養護老人ホームにも移ることができるよう支援をしている。また、理美容師のボランティアの受け入れや日々の外出支援も行っている。		

和田の家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックが隣接しているため、必要があれば受診できる体制も整っているが、基本的には家族との関係をつなぐ方策としても、在宅時の主治医を受診するようにしている。歯科については、近隣に週1回無料送迎サービスを行っている歯科医院があるので、協力病院になってもらい受診しやすい体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでにホームで臨終を迎えたケースは2回あったが、いずれもホームで作成されたマニュアルに従って適切に対処した。看取りについての研修会も実施され、職員間での共有を図っている。また、緊急時の搬送先の病院についても、あらかじめ家族に確認をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を意識し、情報の漏洩に注意を払っている。日々の支援の中では、禁止用語集を作成し、入居者と同じ目線での目立たずさりげない会話を心がけている。個人記録についても適切な表現で記されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームにスケジュールを設けずに、入居者主体の目線で自由に生活を送れるように支援している。リビングで過ごしたり、居室で過ごしたり、時には自分に分担された仕事を行いながら、個々のペースでゆったりと生活を送っている。		

和田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はできなくても声をかけ、目的を持ってやってもらえるように配慮している。職員は、入居者の食事介助の関係や見守りが行き届かなくなるなどの事情で一緒に食事はとっていないが、一緒に食べているつもりでの会話を心がけ、食事の雰囲気や和やかなものにしていく。昼食後には、職員と一緒に片付けを行う入居者の姿が見られた。	○	職員シフトの都合や安全管理の問題で職員と入居者が一緒に食事をとれず、現在は職員は味見程度しか行っていないとのことなので、検食制度等を設けて味付けや食材の安全確認をすることや、またその職員が入居者と一緒に食事がとれるような検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は入居者の希望にそって夜間入浴も実施していたが、現在は14:30~16:00の間で1日おきに入浴をしている。その日によって入る順番を変えたり、気の合う仲間同士で入浴したりと気持ちよく入浴できるよう配慮もしている。また、体調が悪い時はシャワー浴や清拭を行うなど安全にも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の草むしり、針仕事での雑巾作りやおしぼりたたみなど、入居者の得意なことを行ってもらい、お願いされたことをやってあげるという活力を引き出すことで、日々の生活に張り合いを持たせている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昔なじみのお菓子屋さんに出かけたり、在宅時に買い物に行っていたお気に入りのお店に出かけるなど、入居者の要望にそって外出できる機会も設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出ていかれてしまう可能性のある入居者については適宜所在の確認を行うことにより、日中は鍵をかけずに過ごすことが可能となっている。		

和田の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホームとともに、消防署との避難訓練や夜間を想定した避難訓練も年に1度行っている。備蓄についても特別養護老人ホームと合同で行っている。ホームとしても年に4回地域の住民と訓練を行い、避難の必要がある場合には自治会長に運営推進会議で協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの管理栄養士が献立を作成しているため、栄養量やバランスは十分に考えられている。嫌いな物はやはり食べることができないため、代替する物を出すなどの配慮もされている。水分量についても個人記録に記載し、確認されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地元産の木材の風合いが活かされてあたたかみがあり、天井も高く自然光が差し込み、心地良い共用空間が広がっている。食堂内には畳スペースを設け、冬期にはこたつを出してくつろいだり、自由に横になったりすることができるよう配慮されており、家庭的な雰囲気での生活も味わうことができる。またオゾン噴射器を設置し、定期的に湿度調整もできるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具が持ち込まれたり、それぞれにお気に入りの写真を飾ったり、本人が居心地良く感じられるような居室となっている。空調も居室ごとに管理できるようになっている。居室ドアに設けられた透きガラスから、それとなく入居者の所在確認や安全確認も行い、入居者の安心と安全につながる努力をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。